

熊楠ワークス

KUMAGUSU WORKS

第13回【南方を訪ねて】

熊楠の研究フィールドを歩く

ラジオ生番組と共催、420人が参加

十月十三日、第十三回「南方を訪ねて」が熊楠翁の墓地のある田辺市稲成町の高山寺を出発し、稲荷神社、動鳴気溪を経て、再び高山寺に戻る約七キロのコースで行われました。稲荷神社の森は翁が植物を採集した場所で、動鳴気溪は大切な客が田辺を訪れた時のお薦めの自然観察コースだったそうです。参加者は、翁が研究のフィールドとして愛した場所を訪れ、改めて、そこにある自然の大切さを認識し、翁の自然保護に注いだ情熱に思いを馳(は)せました。今回はラジオの生放送を聴きながら歩く和歌山放送の人気番組「ラジオウオーク」と合同で行われたこともあり、参加者は四百二十人となりました。(2面に関係記事)

放送では熊楠翁の研究者で国際日本文化センター共同研究員の松居竜五氏や顕彰会副会長の下口弘氏、同理事の中瀬喜陽氏らが、高山寺境内に設置された放送本部で今回のコースと翁とのかかわりや、翁の魅力について話を展開しました。また、同理事の後藤伸氏はコースを歩きながら、貴重な生物などについて説明しました。

午後一時、高山寺境内に集合した参加者は、アトラクションとして行われた、舞踊家の金崎二三子さんの創作舞踊「熊楠曼陀羅(まんだら)」と天地人アモンさんの太鼓を楽しんだ後、一時半にいよいよ出発です。荒光(あらびか)川沿いを歩く一行は、やがて上り坂にさしかかり、そこから約四百メートルで稲荷神社の鳥居に到着です。ここまで来ると、高山寺の森、そして熊楠ゆかりの神鳥が浮かぶ田辺湾が一望できます。急な坂道を上ってきた参加者は、この景色にほっと一息つき、さらに歩を進め、神社境内

発行所
 南方熊楠邸保存顕彰会
 和歌山県田辺市新屋敷町1
 田辺市教育委員会文化振興課内
 TEL0739(22)5300(代表)

CONTENTS

2面

南方ゆかりの地 中瀬 喜陽氏

3-7面

独学のすずめ 谷川 健一氏
「二人の巨人」
南方熊楠と柳田国男

8面

神島を探る 後藤 伸氏

9面

普段着の南方熊楠②

10面

会員のコーナー

に入りました。

翁はこの森でラン科の着生生物や菌類など腐生植物を多数採集していますが、後藤理事によると現在は、残念ながら当時ほど深い森とは言えないそうです。

神社を後にした一行は、神社裏の薄暗い森やミカン畑の間の坂道を通って動鳴気溪へ向かいました。途中、木立を抜けて視界が開けると、ヒキガエルが何匹も伏せたような岩が連なる「ひき岩群」が眼前に広がり、ここで足をとめ、しばしこの景色に見とれる参加者も多く見られました。

後藤理事によると、ここは岩峰上の森林が伐採と山火事で消滅した結果、このような姿になったもので、いわば「日本の砂漠」だそうです。しかし、崖(がけ)地や谷間には、他の地方では極めて少ないキキョウランやキイジヨウロウホトトギスなどの植物が多数見られます。参加者は貴重な生物の宝庫と

言われる、ひき岩群と動鳴気溪
 一帯の自然を楽しんでいます。
 た。



奇岩「ひき岩群」を見ながら歩く参加者(10月13日、田辺市稲成町で)

